

6、7年ほど前にエジプトの著名な建築家を招いて講演会が、赤十字福岡県支部の主催であった。「美しい日本」てな感じの題だったと思う。最後に質問の時間が設けられていて、年輩のご婦人が立たれこう言われた。「私、京都から福岡に嫁いできて、里からの帰り飛行機が志賀島の方から入ってきて町が見えてきますやろ、そうしたらいつも思いますねん「この町汚いなあ」って。センスがきれいな町や言わはるのようわかりまへん」。すると横にいたこれまた同年輩と思われる男性が間髪入れず「私ももう30年近

汚い町

く設計の仕事をここでしていますが、福岡の町を美しいと思ったことはありません」と言われた。二人の意見に場内は静かな賛同のどよめきが広がり、通訳を通して異邦人の講演者はタジタジであった。＼へエ、案外みんな同じように感じているんだなあ」と私もニヤニヤしてうなずいていた。じゃどうしたらきれいな町になるんだらう？

ヨーロッパの町は確かに美しい、だから住んでみたいと憧れる。時間という調味料がよく効いていて、人間の生理にあった空間が多いような気がする。建物だけが町を作るのではないから、ヨーロッパの家を日本に移しても日本の町は美しくはならない。明治の近代化からずーっと、日本の町は時代に振り回されてきた。そして福岡の町も大きくなった。

建物は謙虚でなくてはならないと思う。謙虚な建物の集まりは人をひき立たせ、風景を侵さないから自然と落ち着いた町を作る。景観に対して市民の意識がやっとなを掛けるようになった今の流れがうまく広がっていけば、次の世紀には町は大きく変わるだろう。

天神の町は車イスの買い物客をよく見かけますね。なんて言われるくらいに人も町も成長すればいいんだけど。

佐藤 猛(城南区樋井川)

博多者は、横道者であるといわれている。物事を横から見て、皮肉を言ったり茶化したりする横着、悪態ぶりを指しているようであるが、視点を変えて事の次第をより客観的に捉えることができ、その上、齒に衣を着せぬという独特の能力をうらやましく思われたのではないか。

景観やまちづくりだけでなく、世の動きに対しても横道ぶりを発揮したいものである。

汚いと思う視点がまちをつくる。

(選考委員 石井聖治)

